

論語教室だより

『寺子屋・こども論語塾』世話人会

第 34 号

2013 (平成25) 年12月21日 (土)

『論 語 塾』

札幌市立厚別中学校2年 金子 大紀

僕が論語塾に通うきっかけとなったのは、父親がインターネットで見つけたからです。そのきっかけから早くも二年が過ぎました。部活動や学校行事などで論語塾に行くことができません。しかし、新田先生は、僕が論語塾に行ったときには明るく迎えてくれます。それが僕の支えとなっています。

論語塾で行う『坐禅』や『素読』は、初めは緊張していて素読を大きい声では読めませんでした。でも新田先生のおかげで、今はだいぶ読めるようになりました。坐禅はご住職の教え方が上手くすぐに身に付きました。初めは足のしびれや、足の痛みがありました。今ではもう慣れました。今なら一時間くらいできると思います。ここまで成長したのは、新田先生やご住職など色々な方々が支えてくださったからです。ありがとうございます。

話が変わりますが、僕には好きな論語の文があります。それは、「子曰わく、巧言令色、鮮なし仁。(心のこもっていない言葉や表情よりも、思いやりの気持ちが大事です。)」これは、^{がくじだい}学而第一にあります。

この文が好きな理由は、思いやりの気持ちを持っていると、とても良い気持ちになると思うからです。また、数千年前も今も「心」(思いやりなど)に対しての考え方は、変わっていないということが伝わってくる文だからです。この論語のすばらしさを新田先生は、僕たちに伝えてくれているということが、論語塾に通って分かりました。僕は、そんな新田先生をととても尊敬しています。論語教室だよりの下に新田先生が書かれている文を読んで、毎回新しい事を学んでいます。新田先生のように人に色々な事を教えられるような人になりたいです。

※ 来年の1月は池田沙和さんをお願いします。

【^{はなし}ちょっといい話 コーナー】

^{じゅくせい}塾生の^{いけだまほ}池田真帆(^{ちとせしやう}千歳小4年)さんが^{がつ}12月^{かど}14日(土)の^{ほっかいどうしんぶん}北海道新聞・^{ゆうかん}夕刊に^{しゃしんい}写真入りで^{けいさい}掲載されましたのでお知らせします。

に ほん じん の ほこ 日 本 人 の 誇 り

寺子屋・こども論語塾 主宰 新 田 修

塾生の皆さんは、待ちに待った冬休みに入ります。無理のない計画的且つ有意義な休みを過ごすようにして下さい。とりわけ、年末年始は気持ちが開放的になり、生活のリズムが乱れがちになるものです。

心してほしいと思います。

「寺子屋・こども論語塾」もお陰様で三周年を迎えることができました。千歳、江別、藤野といった遠距離の方、そして幼稚園児からご高齢の方まで総勢約六十名が共通の目的に向かって相集う空間は何物にも替え難い宝物のように思われます。主宰する立場の人間としてこれに勝る喜びはありません。

さて、この一年を振り返ってみますと様々な出来事がありました。その中でも特に JR 北海道の改ざんと食品の偽装等は許しがたい問題です。何故なら生命に関わる問題だからです。

私達日本人が、昔から一生懸命に求めてきたもの、それは他人を思いやる心であり、貧しくても愚痴を言わずに我慢し、決して嘘をつかないことではなかったのでしょうか。この三つは日本人の誇りであった筈です。憤りを乗り越えて悲しくなってしまうのは私一人だけでしょうか。

せめて塾生の皆さんには、日本人の誇りだけは失ってほしくないと願わずにはられません。

今年も残すところ後わずかになりました。親と子が家庭で触れ合える数少ないチャンスである年末年始を有効に利用し、希薄になりつつある親子の対話が一層深まることを期待します。

どうぞよいお年を！